

論文要旨

社会システム研究科 地域コミュニティ専攻

2012M30006

原田 美和子

本研究では、質の高い看護の提供に向けて、充実した看護基礎教育を実施できる看護教員の確保を推進するため、看護教員のキャリア形成過程とその要因をふり返りの視点から明らかにした。

現在わが国では、看護教員としての基礎がつけられる新任期の養成や継続教育研修の重要性がいわれている。そして自らの看護実践をふり返し、改めて看護実践の意味を深く探求する反省的実践者としての専門家教育がおこなわれている。そこで新任教員を中心とし研究するため対象を新任・一人前教員 4 名。また看護教員のキャリア形成過程の全貌を抽出するため熟達教員 1 名も意図的に含め、東京都立看護専門学校の看護教員の質向上の取り組みの 1 つである「専任教員キャリア別達成目標」を用い、インタビューを実施した。そして得られたデータから分析をおこない「専任教員キャリア別達成目標」に示されている看護教員に求められる能力「看護実践能力」「教育実践能力」「コミュニケーション能力」「マネジメント能力」「研究能力」を柱として整理することとした。その結果、

まず看護教育の歴史と変遷を基に、現在の看護教育制度およびカリキュラムの推移を看護教育の質向上の視点から検討したところ看護全体の向上には看護基礎教育の充実、さらに看護教員の質向上が重要な課題であることが見出された。(第 1 章)

次に看護教員の質向上をめざした取り組みを国の施策から検討したところ、求められている看護教員の資質・能力、専任教員養成講習会・継続教育研修のあり方、臨地実習指導の体制等について整理されており改善策が示されていた。しかし、それに対する具体的方法までは記されておらず、看護教員の質向上への取り組みは、各学校や教員個々にゆだねられていた。そこで看護教員のおかれている環境と生涯学習の現状を把握したところ、環境については「新人教員は研修の有無にかかわらず、入職後すぐに一人前の教員としての実践が求められるという過酷な現状がある。小規模独立型の養成所では教員数等の問題から研修の体系化が困難。看護専門学校で能力を発揮しながら教育にあたる環境が整っていない。」など看護専門学校の環境は看護教員の質向上からははほど遠い状況にあった。生涯学習については専任教員養成講習会の受講や新人看護教員の継続教育研修の重要性がいわれており、各教員の看護実践経験をふり返し「理論と実践を往復する教育」が行われていた。(第 2 章)

そこで看護の生涯学習として取り入れられているふり返しについて D. ショーン・P. クラントン・目黒の理論から整理した。(第 3 章)

そして看護教員 5 名のインタビューから得られたデータを基に「専任教員キャリア別達成目標」の達成要因とふり返りの関係を分析した結果、「看護実践能力」では過去の臨床経験をふり返しながらか新しい技術や知識を学習し、すり合わせ新しい知識を重ねていくこと

で質向上を図っていた。「教育実践能力」では専任教員養成講習会などでの学びをふり返り、授業設計・実施、学生指導をする。また教育経験を自分でノートに記録し、読み返すことや他者評価を取り入れ質向上を図っていた。「コミュニケーション能力」では良好な教員関係、構えず同じ目線でのコミュニケーション環境、臨床経験で培ったコミュニケーション技術を用い、自らのコミュニケーションをふり返ることで質向上を図っていた。「マネジメント能力」では臨床での管理者経験、重要な役割を任され、遂行過程でのふり返りをおこなうことで質向上を図っていた。「研究能力」では全教員未達成であった。しかし全教員とも研究に興味がないわけではなく看護専門学校でも研究活動ができる環境の整備を必要としていた。

さらにこの結果をふまえ、ふり返りの視点から看護教員のキャリア形成過程を統合した。「新任教員」は期待をふくらませ臨床で培った経験や専任教員養成講習会での学びをふり返りながら学生とかかわり、授業を展開する。しかし実際は違い学生指導や授業展開に自信がもてなくなる。この時期、モデルとなる先輩や相談できる環境等が整っていないと、不安や悩みを抱えることになり、バーンアウトにつながり臨床にもどることになる。

「一人前教員」は継続研修や自らで大学や大学院に進学し、そこでの学びをふり返り、集めた情報を整理し授業展開・実施することで力がつく。また学生とのかかわりをノートに記録したり先輩教員に相談しふり返ることで教育全体が見えるようになる。

「中堅教員」は教育経験が充実し学生・教員との良好な関係が築ける。また主任や後輩教員の指導など重要な役割を担う。教育全体が見え自信がもって学生指導や授業にあたるため、学生からは信頼を得、他教員との関係も安定してくる。そんな時に今まで自分の経験のなかで当たり前と思っていたことが間違っていたと気づく出来事に遭遇し混乱する。そして今までの教育経験をふり返り、まず自分が変わる事、自分を変えることが最優先課題と考えるようになり他者からの評価や意見を大切にするようになる。また書くという行為をとおして自己認識・自己洞察・自己容認する。この時期、他者との交流ができず混乱から抜け出せない状態が続くと臨床にもどることになる。

「熟達教員」は、今までの看護教育実践から自分の意識や行動を常にふり返ることで、看護教育全体がわかり自信を獲得する。さらに日々、看護教育実践をふり返り、実践と理論を往復する思考を身に付けることができ反省的实践者へとキャリア形成していくことが明らかになった。(第4章)

以上より、看護教員個々で意識的にふり返りをすれば質向上につながり、キャリア形成していくことが推察された。また今後看護教員の質向上のためにはモデルになる先輩の存在や相談できる環境、研修に参加できる環境、研究に取り組める環境など質向上につながる労働環境を整備することの示唆が得られた。

キーワード：看護教員、質向上、ふり返り